

お知らせ

わたしたちもがんばっています！ パート2

牧町農地水環境委員会（近江八幡市） 代表 浜田 敏次

★活動組織の皆様からの情報をお寄せ下さい。

皆様の活動の様子やイベントの告知など『農村まるごと』に関する情報を本誌やホームページなどで紹介させていただき、広く皆さんにお知らせしたいと思っております。活動組織間の交流や情報交換のきっかけになれば良いかと思います。



編集後記

★この冬は例年にない厳しい寒さとなり豪雪に見舞われた地域もありました。近年よく言われる気象変動のせいかわかりませんが、昔と比べ寒暖の差や雨の降り方など極端になったような気がします。私も環境のために何かできることはないか考えてみたいと思います。(A.W)



私達の牧町は、近江八幡市の西部の琵琶湖の畔にある200戸、水田面積130haからなる集落です。今より数年前は、農業と漁業で生計を立てておられる方もあり、農地と水には大きな繋がりがあるとあります。

今から5年前、まるごとの活動に取り組みを始め、現在では町内の23団体が参画して活動をしています。

活動については、農用地・農道・水路の草刈・修理などは農業関係者を中心に実施し、排水路の泥上げ清掃は集落の皆さんでお願いしています。

集落周辺の清掃活動と広報活動等は、町内の農業関係以外の団体、小学校の児童・中学校の生徒日赤奉仕団・グランドゴルフ有志の皆さん等をお願いをしています。又集落と周辺地域の皆さんとの交流会も楽しんでもらっています。



地域交流風景

さて、私達のメインの活動は濁水の漏水防止に重点を置いております。土地改

良事業をして頂いてから早40年以上を経過し、暗渠排水周辺からの漏水が、代かき後2日目位から発生すると容易には止めることが出来ませんでした。そのため、応急処置に追われる現状だったので、その漏水を止めるためのシートを張る工事を行っています。シートを張ることにより、確実に漏水を止めることが出来、地域でも喜ばれています。この工事を今年度は、2.5km程度実施しており、今後も続けていきます。

加えて生態系保全活動にも取り組んでおり、小魚が生息しやすい環境を作り、めだか・子フナ・鯉の子などがたいへん多く確認することが出来ました。また、軟弱地盤地を利用して、虫息地を作ってみたところ多くのカエル・クツブ虫・こおろぎ等が生息している事がわかりました。少しづつ自然を取り戻せる実感が出てきております。

牧町集落一丸となって豊かな自然の中で営む農業地域を目指して、更に先進的な取組をなされておられる各地域の皆様のご指導を頂き、次世代に誇りをもてる農村作りに努めるつもりです。



生物生息環境向上活動



漏水防止シート張り作業

まるごとだより 第40号

にぎわいある農村をみんなで守り育てよう



人・生きものにぎわう農村フォーラム“2016”を開催しました

平成28年11月23日（水・祝）に彦根市の「ピバシティホール」において、『みんなで話し合い地域を元気にしよう』をテーマに『人・生きものにぎわう農村フォーラム“2016”』を開催したところ、大勢のご参加をいただき盛会のうちに終えることが出来ました。（詳しくは協議会のHPをご覧ください。）



絵画コンクールの表彰



フォトコンテストの表彰



滋賀県からの話題提供1

目次

★人・生きものにぎわう農村フォーラム“2016”を開催しました

★第2回『農村まるごと保全技術研修会』を開催しました

★農村まるごと保全活動から（多賀町）

★わたしたちもがんばっています！パート1
「ふるさと新庄を守る会」（守山市）

★わたしたちもがんばっています！パート2
「牧町農地水環境委員会」（近江八幡市）

発行（2017.3）

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全推進協議会

〒521-1224
東近江市林町601番地
電話 0748-42-4806
FAX 0748-42-5574
Email: kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com



福井さんの基調講演

↑ 福井隆氏の基調講演の要旨

「これまでの『地域を運営する』という考え方を『地域を経営する』に変えないといけない。住民自らが地域のことを考え、新しいことをやらないと地域は生き残れない。改めて今、未来への希望が持てる地域を作り直して、次の世代につなぐことが大事。そのためには、地域に求められる必要な価値を見出す。それは自分たちで攻めの経営を行わないとできない。」



伊庭町環境保全の会の優良事例発表



滋賀県からの話題提供2

第2回農村まるごと保全技術研修会を開催しました

平成29年3月9日（木）に大津市木戸公民館において研修会を開催したところ、たくさんの方のご参加をいただきありがとうございました。

↓ 平田真一氏の基調講演の要旨

「地域を盛り上げる為にはその地域を盛り上げたいと思う人がいるかどうか大切。そこから農家民宿や地域で何か新しい商品を作って売りに行くなど活動を広げていく。何かやるぞという人を3人集めて始め、チャンスをもたせていく。大学と連携していくのも一つの手。地域でもHPを持ってマメに更新し、道の駅とのコラボも考える。」



平田さんの基調講演



滋賀県水みどりエコノ技術協会の説明



参加者の皆さん

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全推進協議会

- 本協議会は、活動組織への支援として技術研修会の開催や情報発信などを行っています。
- 書類作成にかかる参考資料や活動事例などの情報をホームページでお知らせしています。

<http://www.shiga-nouson-marugoto.com/index.html>

Email: kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com

農村まるごと 発行





農村まるごと保全活動から

多賀町 産業環境課

多賀町は、滋賀県の東部に位置し、岐阜県、三重県と接しており、鈴鹿山系の北端である霊仙山、御池岳

から流れる芹川、大上川の両側に広がる中山間地域であり、途中、ダムを設けて流域耕地に灌漑用水を供給しながら琵琶湖に注いでいます。気候は、夏期は西日本中間地の気候であるが、冬期は積雪が多く曇天の多い日本海側気候となります。耕地は、沖積砂壤土地帯が多く、山脚の傾斜地と緩傾斜の中間平野部から成っています。

町面積の約86%を山林が占め、経営耕地面積は398ha、1経営体当たり平均経営耕地面積122a、専業農家数41戸、兼業農家数273戸、主な作物は水稲、そば、麦、大豆、野菜等の生産に適しています。

また、地域において環境負荷の軽減に配慮した農業の生産方式を普及することにより、生物多様性を保全し、多面的機能の発揮の促進を図っています。

農村まるごと保全向上対策に取り組んでいる組織は、平成28年度に新たに1組織加わり17組織となり、活動面積は約347ヘクタールで農家の方の農地を守ろうという意識や環境へのこだわりが感じられます。

多賀町の特産品として豊かな自然の恩恵を受け、営農活動の環境こだわりによって栽培されている「多賀そば」や環境こだわり野菜「多賀にんじん」があります。「多賀そば」は味と風味に優れた「常陸秋そば」を作付けし、約80ヘクタールと近畿地区では有数のそばの産地となっており、「多賀にんじん」はクセがなく非常に甘みが強いのが特徴で約4ヘクタールの農地で栽培をされています。



そばの収穫(宮ノ尾)

まるごと活動組織においては、次世代を担ってくれる子どもたちには豊かな自然を残していきたいと

ホテルの観察会や川にやどる生き物の観察会などを開催し、これらの活動は、地域住民の環境への意識づけにつながっています。濁水を流さない取組みや水路の泥上げ、草刈りも地域資源を守る活動であり、すべての活動組織で取組みが実施されています。



畦畔の草刈り

また、本町全域が山村振興地域に指定され中山間地域等直接支払制度については3集落協定で活動が実施されています。近年、野生鳥獣被害の深刻化・広域化に対応するため、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、鳥獣被害防止のため獣害防止柵の設置や有害獣の捕獲などの取組も実施しています。捕獲したシカは一部ジビエ食材として、町内の高取山ふれあい公園で提供されています。

世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策は、子どもたちから高齢者の方まで、農村がひとつになって次の世代へ農村を繋いでいくという礎が出来てきたように感じられます。今後もこのような高い環境意識を維持しながら、地域資源を活用した取組を展開することにより、農業・農村の活性化を目指していきたいと思っています。



獣害柵の草刈り

わたしたちもがんばっています！パート1

ふるさと新庄を守る会(守山市) 事務局 中島 耕治

私たちが活動している「ふるさと新庄を守る会」は、守山市の小学校区の中で一番小さな中洲学区内にあり、その学区の中でも一番小さな自治会が母体となっています。

新庄町の集落は、1級河川の野洲川の中洲に古くから村落が作られていました。

しかし、野洲川の氾濫防止のため昭和46年の野洲川改修により川の流れが変えられ、集落の真ん中を新河川が通り、家屋の一部立ち退きも起こり、昔からの地形が分断されました。さらに、田畑も河の底に沈み、耕地面積もかなり減ってしまいました。

現在、集落は野洲川の堤防脇に集まっていますが、水田は野洲川の両側に分断されています。

また、河川改修で地下水脈の流れが変わり、里中を流れる小川は雨が降った後くらいしか流れがない状態になりました。水田を潤す用水は、琵琶湖からの逆水灌漑となっています。昔は野洲川の伏流水がふんだんにあり、川での魚つかみや田んぼへの導入水も里を流れる川で十分まかなえていました。

このように、自然の川の流れを活用した活動は満足に出来なくなりましたが、小さい集落の良さを生かした「ふるさと新庄を守る会」の活動を行っています。

私たちの組織構成は、町内に存在している各種団体ごとの活動内容を基本としています。これにより、活動内容によっては参加されない方もおられますので、全活動状況を町内の皆さんに報告・連絡するツールとして「守る会レポート」を年6回発行し、全戸配付を行っています。「守る会レポート」は、活動内容の報告やその行事の必要性・効果など、写真も挿入した紙面構成にしています。

主な活動を2つご紹介します。
水路清掃: 田植え前(春)と稲刈り前(秋)の2回、全戸が参加対象として水田を巡る水路の泥上げおよび土手の草取りを行います。これには非農家の方にも参加頂いており、水路を清掃することで川を守る意義を全員で確認出来ていると思います。5つのグループに分け、担当エリアを順繰りに替わるようにし、公平な分担になるよ

うに調整をしています。



水路清掃の様子

新庄コスモス園: 最近では数多くの地区で大きなコスモス園が開設されていますが、私たちのコスモス園は、20年以上前から取り組んでいます。面積はそれほど大きくは有りません。しかしどこで知って頂いたのか、かなり遠方からもお越し頂いている様です。このコスモス園の開設は、子ども会、老人クラブ、新和会(青壮年クラブ)、農業組合、自治会など「ふるさと新庄を守る会」登録団体すべてのメンバーが参加しています。車いすで散策出来るようスロープを設け、高見台も準備していますので介護施設からの見学者もかなりおられます。

コスモス園は第一園と第二園の二カ所を整備しており、第一園はカラフルな彩りのコスモスを、第二園は黄色と橙色のコスモスを咲かせています。昨年第二園の真ん中に高さ5M程のキノコの家のオブジェを設置したところ、写真スポットにもなっている様です。(このオブジェは廃棄前の牛舎サイロを再利用して作成しました)

私たちの地区は、小さく、また昔からの住民がほとんどで、活動への参加率はかなり高いのですが、「毎年の行事」と活動内容がマンネリにならないよう「内容を見直しながら継続する」ことを基本に、今後も活動を続けていきたいと思っています。



コスモスの種まき

お知らせ

★推進協議会では、まるごと活動の参考となるビデオやDVDを無料で貸し出ししています。

●VHSビデオ●
◆NO.1「まずはみんなで話し合おう！」
《農の恵みを分ちあう住みよいムラづくり》

●DVD●
◆NO.2「草花を活かして景観づくり」
《みんなでつくるう！花咲く田畑と香るあぜ道》

◆NO.3「水路を活かして生態系保全」
《田んぼと水路を生きものたちのゆりかごに！》

◆NO.4「共同活動でムラを一つに！」
《「長寿命化」で豊かな農地・水・環境を後世へ》

◆NO.5「水路を長持ちさせるには？」
《簡易補修の基礎と点検・診断》

◆NO.6「水路の簡易補修マニュアル」
《簡易補修のポイントと実際》

◆「みんなで草刈り編」
《この手があった！ラクに安全に草刈り作業を共同で進めるとき工夫・アイデア》

◆「雑草管理の基本技術と実際」
●第1巻 雑草管理の基本と雑草の実際
●第2巻 田んぼ・あぜの雑草

●第3巻 畑の雑草
●第4巻 土・作物・景観もよくなる農家の工夫

★ご希望の方はご連絡下さい。